

## 令和 3 年度第 1 回「健康食品」による健康被害事例専門委員会からの報告

## 1 開催日時等

令和 3 年 6 月 2 3 日（水曜日）午後 2 時から 4 時まで（オンライン開催）

事務局設置場所：健康安全研究センター 6A 会議室

## 2 議事及び報告事項

## (1) 議事：事例の検討について

令和 2 年 1 2 月 1 日から令和 3 年 5 月 3 1 日までの間に都医師会、都薬剤師会を通じて収集した 1 5 事例について検討を行った（1 5 事例中には 3 製品を同時に摂取していた事例があり、症例数としては 1 3 となる）。

検討の結果、緊急調査等が必要な事例はなかった。また、個別の事例に関して、都医師会、都薬剤師会に対して情報提供の協力の依頼を要するものはなかった。

なお、1 2 事例（水様性下痢、胃潰瘍、肝障害、便秘、関節痛、尿酸値異常、白血球値異常、抜け毛、腹痛、女性化乳房）は原疾患や併用薬等の影響が考えられること、摂取状況・転帰等が不明であるために因果関係が不明であること、3 事例（皮膚発赤、掻痒感、下痢）は、よく知られた非重篤な事例であり、患者の体質等製品以外の影響も考えられることから、蓄積していくという結論になった。

また、高齢者、医薬品を服用している方、複数の製品を同時に利用している方等では、健康食品の利用により予期せぬ健康被害が生じることがあること、医療機関にかかる際は、健康食品の利用について医師に伝えることが健康被害の未然防止につながる、との意見があった。

## (2) 報告：東京都医師会及び東京都薬剤師会への協力依頼について

（令和 2 年度第 2 回「健康食品」による健康被害事例専門委員会終了後の資料送付）

昨年度第 2 回当専門委員会での検討結果、情報提供することとした 3 事例（肝障害、皮膚紅潮、下痢）について、都医師会、都薬剤師会に対して協力を依頼したことを報告した旨、事務局から報告された。

## (3) 報告：収集事例の集計結果について

平成 1 8 月 7 月 1 日から令和 3 年 5 月 3 1 日までに収集した事例の集計結果について、下表（抜粋）のとおり、事務局から報告された。

健康食品との関連が疑われる健康被害事例の集計結果（抜粋）

ア 収集事例の内訳

医師会・薬剤師会等の別	製品数	患者数（人）
医師会	253	180
薬剤師会	155	144
東京都消費生活総合センター※	3	3
合計	411	327

※東京都消費生活総合センターについては、分析・評価の依頼のあった事例について、平成30年7月から「健康食品」による健康被害事例専門委員会の分析・評価の対象としている。

イ 利用目的の年代別分布（複数報告あり）

	ダイエット・美容	便秘	婦人科疾患改善	強精	血流改善	栄養補給	腰痛・関節痛	血圧改善	血糖値改善	肝機能改善	美肌	免疫賦活	健康維持・健康増進	病気の改善	病気の予防	美容	バストアップ	筋肉増強	不明・記載なし	年代別患者数
10代	2				1	2													2	7
20代	19		1	1		2					2		1	4		4	3		18	55
30代	15				1	5					5		4	1		7			17	55
40代	11	1	2	1		2	2	1	1		1		6	3	1	5			17	54
50代	9	2				22	13		1	1	2	2	8	2	2	3			33	100
60代	7	3	1	1	3	10	16	4			1	2	15	7	1	1		2	28	102
70代	2	3	1		3	13	25	3	2	1			11	5	1			2	38	110
80代	3	3			2	8	12		3	1	1		3	2		3			22	63
90代							1							1					2	4
不明・記載なし	2	1				4			1						1	1			6	16
合計	70	13	5	3	10	68	69	8	8	3	12	4	48	25	6	24	3	4	183	566

- ・ダイエット・美容は20～40代、栄養補給は50代から70代、腰痛・関節痛は50代から80代、健康維持・健康増進は60代から70代が多い。
- ・年齢別では、50代から70代の利用が多い。

ウ 性別割合

性別	患者数(人)	構成比
女性	242	74%
男性	81	24.8%
記載なし	4	1.2%

・女性 は男性の約 3 倍であった。

エ 医師の診察の有無

医師の診察の有無	患者数 (人)	構成比
有り	231	70.7%
無し	57	17.4%
不明・記載なし	39	11.9%
合計	327	100.0%

・医師の診察がない（又は不明）患者が約 3 割であった。

オ 基礎疾患の有無

基礎疾患の有無	患者数 (人)	構成比
有り	196	59.9%
無し	90	27.5%
不明・記載なし	41	12.5%
合計	327	100.0%

・基礎疾患のある人の事例は約 6 割であった。

カ 基礎疾患に対する治療薬の有無

基礎疾患に対する治療薬の有無	患者数 (人)	構成比
有り	146	74.5%
無し	14	7.1%
記載なし	36	18.4%
合計	196	100.0%

(N=基礎疾患のある 196 人)

- ・基礎疾患のある人の約 7 割 5 分が、治療薬と健康食品とを併用していた。
- ・これは患者数 (327 人) の約 4 割 5 分を占めていた。

キ 症状・異常所見等（複数報告あり）

症状・異常所見等	報告数（件）
皮膚症状（発疹・発赤・掻痒）	111
胃痛・胃部不快感・吐気	55
肝機能障害、肝機能検査値異常	41
血液検査異常(肝機能以外)	39
下痢・軟便	25
便秘	8
めまい・ふらつき	6
倦怠感	6
出血、出血傾向	6
頭痛	6
下腹部痛、子宮出血	2
その他	47
合計	352

- ・症状は「皮膚症状」が最も多く、次いで「胃痛・胃部不快感・吐気」「肝機能障害・肝機能検査値異常」であった。
- ・なお、症状・異常所見と製品との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものであるが、確定された事例はなかった。

東京都食品安全情報評価委員会  
「健康食品」による健康被害事例専門委員会 委員名簿  
(五十音順・敬称略)

令和3年4月現在

No.	氏名	所属
1	○ 梅垣 敬三	昭和女子大学 食安全マネジメント学科 教授
2	小林 弘幸	公益社団法人東京都医師会 理事
3	千葉 剛	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 食品保健機能研究部 部長
4	松本 雄介	公益社団法人東京都薬剤師会 理事
5	水谷 太郎	地方独立行政法人茨城県西部医療機構 理事長
6	山口 正雄	帝京大学ちば総合医療センター 第三内科（呼吸器）教授
7	山口 隆司	一般財団法人食品産業センター 海外室次長

(○) 座長